

『公害の街から環境の街へ』

年 組 番 名前

【質問1】

現在、東アジア・東南アジアの新興国は急速に経済が発展しています。交通網や発電、上下水道等のインフラ整備も進み、欧米や日本の企業が投資を進め、多くの会社や工場が進出しているのです。

しかし、新興国が豊かになる一方で、深刻な公害問題も発生しています。多くの人がマスクをつけて外出する都市もあります。また、様々な有毒物質で、河川や海洋が汚染されているのです。

日本も、戦後の高度経済成長期には、「公害」は深刻な問題でした。「水俣病」や「四日市ぜんそく」などが発生したのもこの時期です。当時は、多くの都市が公害に苦しんでいましたが、先輩方はそれを克服してきたのです。



大気汚染が深刻な東アジアの都市

「公害」「貧困（貧富の差の拡大）」「差別」など、多くの社会問題が存在してきました。

私たちの先輩方は、そのような「社会問題」を一つ一つ解決して、みんなが安心して生活できる国をつくってきたのです。現在も未解決な問題が、数多く残されていますが、少しずつ社会がよい方向に向かっているのも事実です。

それでは、「北九州市」を始めとする日本の各都市が、**公害問題を克服し、豊かな自然環境を回復して**

「健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ？」 だと思いませんか。

1～3つ考えてみましょう。

○

○

○

『公害の街 北九州市』

1901年に「^{かんえいやはたせいでつじよ}官宮八幡製鐵所」が操業を開始して以降、たくさんの工場が^{どうかいわん}洞海湾を囲むように立地し、北九州地域は四大工業地帯の一つとして日本の経済成長を支えてきました。

酸化鉄の「赤」、カーボンの「黒」、セメントの「白」など、当時、工場群から昇る色とりどりの煙は、「七色の煙」と称され、発展の象徴、街の誇りでもありました。



工場のえんとつから出されるけむり（1960年代）



工場の排水で汚れた洞海湾（1960年代）

しかし1950年代に入ると、大気汚染が激化し、教室の黒板の字がかすんで見えるほど空気が汚れた学校もありました。

洞海湾も工場排水で生物が生きられないほど汚染され“死の海”と呼ばれました。酸性の廃液のために、湾を航行する船のスクリューが溶けるほどだったのです。

1959年から「降下ばいじん量」（空から降ってくるちりや灰）は連続して日本一を記録し、1969年には日本初の「スモッグ警報」が発令されました。ぜんそくなどの健康被害も一層深刻となりました。

しかし、公害防止装置を開発し、設置するためには莫大（ばくだい）な費用が必要です。そのため、工場の公害対策は不十分なままでした。



とけたスクリュー



工場に囲まれた城山小学校（八幡西区）

当時は、何よりも経済発展が優先の時代でした。環境や健康より、会社の利益が大事にされたのです。

まわりを工場にかこまれた城山小学校の公害被害は深刻でした。しかし、工場は保護者の職場でもあったため、被害に苦しむ住民、学校、PTAは何も言えませんでした。

そして、公害の深刻さから廃校になってしまったのです。

エキスパートA【母親たちの団結と運動】 黙読した後 (1) (2) について話し合しましょう。

工場は働く場であり、市民の多くは工場の従業員です。北九州市の繁栄（はんえい）は、工場の操業に大きく依存していました。その工場が汚染源であるため、公害に反対するのは難しかったのです。工場が操業停止に追い込まれば、従業員の減給（げんきゅう）や解雇（かいこ）の可能性もあります。「公害反対」を唱（とな）えれば、企業からも、地域からも非難（ひなん）される可能性がありました。

こうした困難な状況の中、**①最初に反対の声をあげたのは戸畑（とばた）の中原婦人会のお母さんたち**でした。「子どもの健康を守るため、汚れた空気を何とかしたい」と切なる思いで団結したのです。

大企業を相手に、一人で訴えても相手にはしてもらえません。ですから、力を合わせて「青空を取り戻す運動」を始めました。

当時はまだ、「公害の健康被害」がよく知られていませんでした。そこで、婦人会は、シーツやワイシャツを干して、大気汚染の実態を調査し、その結果をもとに市議会を通じて工場に改善を迫ったのです。続いて、お菓子の空き箱を使って「降下ばいじん量」を測定しました。そして、病気で欠席した児童数との関係を調べて発表したのです。このような平和的で、科学的な活動が多くの人々の共感を得て、市民運動が拡大しました。

1965年、母親達の運動はさらに広がり、慣れない映写機を手にも、自ら制作した記録映画「青空がほしい」は、全国でも大きな反響を呼びました。この時は、13の婦人会の6,000人が、役割を分担して協力したのです。こうした活動は、女性の立場から、「環境問題」や「女性問題」に取り組むきっかけともなりました。また、婦人会の運動を受けて、マスコミも「公害被害や対策」について報道しました。こうして、「市民、行政、企業」の環境対策への意識が向上していったのです。

このような、お母さんたちの運動によって、今では、健康で安心して暮らせる生活環境を求める権利は、「環境権」として広く認められています。

- (1) 企業や地域の圧力で、抗議するのが難しい状況の中、**①最初に反対の声をあげたのはお母さんたち**でした。なぜ、お母さんたちは反対の声を上げることができたのでしょうか。なぜ、活動を続けることができたのでしょうか。

(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

- (2) 資料を参考にして、北九州市が公害問題を克服して、「**健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ?**」を、考えましょう。できるだけ、複数考えてみましょう。

健康で安心して暮らせる街にできたのは、

(班での説明に使うキーワードも考えましょう)

- 班に帰って ①上の四角内（公害問題に最初に反対の声を上げたお母さんたちの運動）を簡単に説明。
②みんなで考えた「お母さんたちが反対できた理由。続けられた理由」を説明。（複数可）
③あなたが考えた「**健康で安心して暮らせる街にできた理由**」を伝えてください。（複数可）

エキスパートB【市政を変えた選挙】 黙読した後(1)(2)について話し合います。

日本初の「スモッグ警報発令」によって、北九州市は「日本一空気の汚れた街」と呼ばれます。住民は大きな衝撃を受けると同時に、恥ずかしい思いもしました。これをきっかけに、「公害反対運動」や「マスコミ報道」はますます大きくなり、北九州市民の意識は確実に変化しました。

その結果、市長選挙では「市の公害対策」が最大の争点となったのです。どの候補も、選挙公約の第1番目に「公害対策の推進」を訴えざるを得なくなりました。

選挙結果は、公害の原因となっている「大手企業からの支援を受けた候補」の勝利でした。

しかし、公害対策について、より積極的な提案をした他の候補も予想を上回る票を獲得したことで、新しい**① 市政は、公害対策に手を抜くわけにはいかなかった**のです。

企業も、次の選挙に負け、より厳しい公害対策を迫られることに危機感を強めました。自分たちが支援した市長を守るためにも、**② 企業は、市の指導に従わざるを得ない状況になった**のです。

こうして、北九州市と企業の利害関係が一致し、市の公害対策が本格化することになります。

次の1～4は北九州市が実施した政策の例です。

- 1 公害防止のための「市の法律」をつくる。(条例)
- 2 国の基準よりも厳しい排出基準を含む「公害防止協定」を企業と結ぶ。
- 3 工場が公害を出さないように「立ち入り検査」を実施する。
- 4 企業や国と協力して、洞海湾(どうかいわん)のヘドロを取り除く。

1971年の

私たちは、自分の意志を「選挙」によって示し、政治に参加することができます。民主的な国家にとって、自由選挙は最も重要な制度の一つです。弱い立場の人も、等しく一票の権利を持っているからです。長い闘いの結果、市民が獲得した「選挙権」は、よりよい社会を実現するために、欠くことができない大切な権利なのです。

- (1) 「**①市政は、公害対策に手を抜くわけにはいかなかった**」「**②企業は市の指導に従わざるを得ない状況になった**」とあります。**市政と企業を「公害対策」に向かわせたものは何なのでしょう。**
(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

- (2) 資料を参考にして、北九州市が公害問題を克服して、「**健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ?**」を、考えましょう。できるだけ、複数考えてみましょう。

健康で安心して暮らせる街にできたのは、

(班での説明に使うキーワードも考えましょう)

- 班に帰って ①上の四角内(北九州市の公害問題への取組のきっかけと政策)を簡単に説明。
②みんなで考えた「**市政と企業を公害対策に向かわせたもの**」を説明。(複数可)
③あなたが考えた「**健康で安心して暮らせる街にできた理由**」を伝えてください。(複数可)

エキスパートC【世界の環境リーダーへ】 黙読した後 (1) (2) について話し合しましょう。

市民運動や市長選挙の結果を受けた「法律の制定」によって、企業は本格的に公害対策に乗り出します。1972～1991年の間に、行政と民間の合計で、**① 8043億円の費用が公害対策に費やされました。**

②法律を守るため、利益を犠牲（ぎせい）にしてでも、企業は次のような公害対策を進めたのです。

- 1 煤塵（ばいじん）や有害物質を取り除く設備をつくる。
- 2 汚れた排水を洞海湾（どうかいわん）に流さないため、工場排水を処理する施設をつくる。
- 3 北九州市や国と協力して、洞海湾のヘドロを取り除く。

このような企業の取組の結果、1987年（昭和62年）には、北九州市は「星空の街百選」に選ばれ、星空の美しい街、ベスト100に入るまでになりました。また、洞海湾も100種類をこえる魚が住む、豊かな海によみがえりました。

北九州市は、市民と行政、企業が一体となって公害を克服したのです。そして、公害克服の経験と技術を、他の国々の公害対策や、地球全体の環境問題解決に役立てようとしています。

市は、毎年多くの海外技術研修員を受け入れ、民間企業や大学、市役所などで、公害防止技術を指導しています。環境国際会議の開催や、専門家の開発途上国への派遣など、国際協力を積極的に進めています。また、北九州市の企業にとっては「環境技術」が新しい産業へと成長し、会社に新たな利益をもたらすことになったのです。

北九州市は「公害の街」から「環境の街」へと公害問題を克服する過程で、多くの貴重な技術やノウハウを蓄積しました。そして、「世界の環境リーダー」と呼ばれる街に発展したのです。

- (1) **① ②**にある通り、法律を守り、公害問題を解決するためには莫大（ばくだい）な費用が必要でした。しかし、問題を解決する過程で、北九州市の人たちが得たものがたくさんあります。それでは、「**公害克服の過程で北九州市の、市民と企業が、それぞれ得たもの**」を考えてみましょう。（できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。）

市民は

企業は

- (2) 資料を参考にして、北九州市が公害問題を克服して、「**健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ?**」を、考えましょう。できるだけ、複数考えてみましょう。

健康で安心して暮らせる街にできたのは、

(班での説明に使うキーワードも考えましょう)

- 班に帰って **①**上の四角内（市や企業の公害対策と、北九州市の国際協力）を簡単に説明。
②みんなで考えた「公害克服の過程で、市民と行政と企業が得たもの」を説明。（複数可）
③あなたが考えた「**健康で安心して暮らせる街にできた理由**」を伝えてください。（複数可）

【ジグソー資料】

各エキスパートからの発表の後、みんなで考えましょう。

「北九州市」を始めとする日本の各都市が、**公害問題を克服し、豊かな自然環境を回復して**

「健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ？」 だと思いますか。

ジグソーグループで話し合っ、一番大切だと感じるものから順に書いてください。

そして、一番に選んだ理由を考えましょう。なぜ二番目・三番目より大切だと考えたのでしょうか。また、選んだ3つのものには、どんな**関連**があるのでしょうか。

	1班	2班	3班	4班	5班	6班
① 一番						
②						
③						

①を選んだ理由は、

.....

.....

②を選んだ理由は、

.....

.....

③を選んだ理由は、

.....

.....



【問1】 今日北九州市の公害問題克服の歴史を通して考えました。

「どうすれば、よりよい社会が実現できるのか」

話し合いを通して、そのヒントがつかめたでしょうか。

それでは、「北九州市」を始めとする日本の各都市が、**公害問題を克服し、豊かな自然環境を回復して**

「健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ？」 だと思いますか。

もう一度考えてみましょう。

○

○

○

【問2】 あてはまる番号の枠全体を黒く(■)塗りつぶしてください。

1	学校の授業全体のうち、このような進め方の授業(グループでの話し合いを中心にした授業)をどのくらいやりたいですか	とてもやりたい (毎日1時間くらい, あるいはそれ以上)	5
		結構やりたい (週に1, 2回くらい)	4
		時にはやってもよい (月に1, 2回くらい)	3
		たまにはやってもよい (学期に1, 2回くらい)	2
		やりたくない	1

参考文献等

「みんなで守ろうきれいな地球」 北九州市環境局 平成19年

「北九州市環境施策ハンドブック～公害克服から持続可能な社会へ」 北九州市 JICA IGES

「公害克服の歴史」 北九州市市政ラジオ番組 北九州トークウィズユー 平成25年10月4日

「公害克服経験における社会的アクターの関係」 法政大学人間環境学部 藤倉良 2004年4月20日

